

重点目標	評価項目	取組(P)	自己評価(A)		学校関係者評価
			方策・手立て(D)、結果の考察・分析及び改善策等(C)		
2 生徒支援の充実	①基本的生活習慣の確立、および豊かな人間性と規範意識の醸成	(1) 生徒相互のあいさつの活発化と日常化を図るために、生徒会や部活動生を中心に朝のあいさつ運動に取り組む。 (2) 身だしなみの意識改善を図るために、授業等での常時指導を全職員で徹底するとともに、定期的な服装容儀指導を実施する。 (3) 社会のルールとマナーを守り、分別のある行動ができ、他人への配慮を忘れず、人間性・協調性に富んだ生徒を育成すると同時に、教員自身が率先垂範に努める。 (4) 生徒の個性を尊重し、人命尊重の精神を育成し、いじめのない環境を醸成するために、生徒一人ひとりに目を配り、居場所作りに努める。 (5) 規範意識の高揚を図るために、時間厳守、礼儀作法など、社会の常識や秩序を正しく理解させ、高校生として取るべき行動とは何かを考えさせる。	○年間を通して、生徒(部活動生及び生徒会等)、職員が一体となって正門でのあいさつ運動を実施した。この運動は、あいさつや風紀指導のみならず、生徒の表情観察や登校状況を把握できる絶好の機会と捉えており、生徒理解のための重要な活動の機会と考えている。 ○各学期の始業日、定期考査最終日に各学年別に容儀指導を実施している。服装の乱れはないが、頭髪で再指導を受ける生徒がみられる。 ○LGBTに配慮した取り組みとして、昨年度より女子のスラックスを導入している。今年度は、7名の1年生が購入し、着用している状況である。 ○規範意識の高揚を図るための取り組みとして、「時間厳守」を徹底している。遅刻する生徒は極少数であり、授業も落ち着いて開始できており、職員自身が率先垂範に努めている。	3.0	・コロナで学校行事や部活動が分断されたが、3年ぶりに活動を復活された意義は大きいと感じています。 ・エクセルシア祭体育の部は台風により順延実施となり準備等到大変なご苦労があったと思います。準備運動の「自校体操」が定着してきた。 ・校則や制服の問題について生徒会や保護者が中心となって取り組んでいるので、その成果を期待します。 ・①、②については、基本的な学校生活や部活動・学校行事等での取組内容は充実しています。また、良く分析・改善されています。 ・③については不登校生が数名いるとのことですが、学校側もカウンセリング等対応されており、専門の講師を招き職員研修を実施されており、問題ないと考えます。 ・評価項目に基づき、取組を計画し、実行していただいていると思います。全体的にルールやマナー、規範意識など管理的な「指導」への偏りを感じます。豊かな人間性の醸成や個性の尊重という言葉はあるものの具体的な取組が見えません。校則改定などの予定もあるようですが、過度な管理は没個性、主体性の損失につながりますので見直しを期待します。 ・ボランティア活動をやりたくてもやれない現状であったが、今後は活動の開拓と紹介、生徒の積極的参加を期待したい。 ・修学旅行、無限会など学校行事の開催にあたっては教職員の先生方をはじめ保護者様の協力のもと、大変なご苦労があったと思う。窮屈な生活を強いられる中、生徒たちは十分それを理解し満喫していたように感じる。 ・「日南高校 携帯電話利用五箇条」の徹底を期待する。どこまでを管理するのか非常に難しいが、生徒会活動などを通し、生徒たちに考えさせる場を設けてはどうか。 ・生徒に対する風紀の徹底や大きな行事関しても感染対策をしながら実施して、生徒への思い作りが進められたことは喜ばしいことである。 ・校則についても積極的に取り組んでおり、生徒目線での配慮が良い取り組みと感じた。
	②部活動の充実強化及び学校行事やボランティア等への自主的で積極的な参加の促進	(1) 帰属意識を高めるとともに、生徒の自主性を育成するために、生徒主体の運営を促し、生徒会活動や各種委員会活動、部活動や学校行事等の活性化を図る。 (2) 勤労の尊さや相手の立場に立って考えることの大切さを理解できる生徒、シティブライドを持った生徒を育成するために、ボランティア活動や地域行事への積極的な参加を促す。 (3) 部活動の意義を理解し、部活動で学んだことが日常生活や学校生活で生かせる生徒を育成するために、1年生への部活動加入を強く推奨し、文武両道を目指すとともに、奨励部を中核として部活動の活性化を図る。 (4) 情報端末(携帯電話など)の適切な使用について考えさせ、メールやSNSによる誹謗・中傷をはじめとする様々なトラブルを防ぐために、「日南高校 携帯電話利用五箇条」に基づいた指導を徹底する。	○学校行事や部活動、ボランティア活動は、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で中止や延期、規模縮小などの制限を受けながらも、可能な限りこれまでの練習の成果や取り組みを発表できる機会を確保することができた。本校の伝統行事でもある「無限会」を生徒職員、保護者の協力のもと3年ぶりに従来の方法で実施することができた。 ○一昨年度の試行期間を経て、昨年度からスマホ等の校内持ち込みを許可している。また、本校独自の取り組みとして、時間と場所を設定し使用も認めている。数件の不適切使用により指導した生徒もいたため、今後一層の情報モラルや使用方法についての指導徹底を図っている。 ○昨今、ブラック校則等のニュースが話題となっている。12月に改訂された「生徒指導提要」を基本に生徒、職員、保護者との対話を重ね、より良い校則に改訂できるよう努力している。	3.0	
	③生徒の心身の健康への意識向上及び教育相談活動の充実	(1) 定期健康診断等の結果をもとに生徒の健康状況を把握し、家庭との連携を図り、生涯を通しての健康づくりに取り組む。 (2) 健康観察・保健室での様子、教育相談室での相談、教育相談アンケート、職員からの情報などから生徒の心身の変調を早期に把握し、職員とのチームワークで生徒一人ひとりにきめ細やかなサポートができる体制づくりに取り組む。また、生徒の心の問題については教育相談室を中心としながら、状況に応じて外部関係機関と連携し、迅速な対応を行う。 (3) 教育相談・特別支援に関する職員研修・講演会の実施や関係する保護者・職員・外部機関との連携を通して、支援が必要な生徒が学習しやすい環境を整える。	○各種の健康診断結果をもとに、健康相談や医療機関への受診を促した。また、保健室より発行する「ほけんだより」を通じて、生徒の心身の健康についての知識や意識の向上に努めた。 ○年間3回(各学期1回)の教育相談アンケートを通じて、生徒の不安や悩みの解消に努めた。また、生徒の状況に応じて県のスクールカウンセラーを要請し、カウンセリングを行った。(本年度:1回)また、各学期末に「相談室だより」を発刊し、生徒たちの心の健康について触れ、電話での相談窓口の案内も行った。今後も学校、家庭(保護者)、専門機関と連携協力し、きめ細やかな対応を行っていききたい。 ○今年度は日南くろしお支援学校 特別支援教育チーフコーディネーターの満石恵美子先生を講師にお迎えし、「学びにくさ、生きにくさを抱えた生徒の理解と支援」という題目で、職員研修を実施した。困り感を持った生徒たちの具体例などが示され、今後の指導や授業改善に大変役立つ内容であった。今後も担任・副担任をはじめ、全職員で共通理解を図りながら配慮の必要な生徒を含め、すべての生徒たちが過ごしやすい環境づくりを目指していききたい。	3.0	
	④環境美化活動と清掃奉仕活動の充実	(1) 環境美化に生徒・職員が一体となって取り組むことができる体制を整備し、快適な学習環境・職場環境の維持を図る。 (2) 美化委員会を中心とした環境美化活動を推進し、生徒の美化意識と奉仕の精神の喚起・啓発に努める。 (3) 地域と連携した清掃奉仕活動を実施し、地域に根ざし、地域から信頼される学校づくりに寄与する。	○年間3回(各学期1回)の清掃強化期間を設定し、美化委員会を中心に学校全体で清掃美化に努めることができた。また、2学期からこの清掃強化期間に並行して清掃場所担当職員に校内安全点検を依頼し、快適な学習環境・職場環境の維持に努めた。 ○今年度も2年学年団へ校内清掃奉仕活動の協力を依頼し、各クラス年1回LHRの時間に清掃活動を実施した。また、日南市との連携事業でもある「1学年 鉄肥駅清掃活動」も1学年各クラスのLHRの時間に実施することができた。また、12月に行われたJR日南線構内美化作業ボランティアにも多くの生徒が参加し、熱心に取り組んだ。 ○今年度から、美化委員会が中心となり、ゴミの各自持ち帰りの実施を始めた。生徒及び職員一人ひとりの協力もあり、取り組みについて概ね良好である。今後も継続して環境美化に努めていきたい。	3.3	

重点目標	評価項目	取組(P)	自己評価(A)		学校関係者評価	
			方策・手立て(D)、結果の考察・分析及び改善策等(C)		具体的意見	
3 進路支援の充実	①生徒が有する多くの要求に応えるための企画や指導方法の研究と実践	(1) 3年生は各コースの特性を生かした進路支援を実践し、前年を上回る進路達成を実現する。 (2) 校内・校外模試については、結果の迅速な分析を行い、学力向上を目指すとともに、早期の進路決定と目標実現のための支援を強化する。また、種々の資料やデータを有効に活用し、進路支援に生かす。 (3) 分野別教養講座・オープンキャンパス・看護体験・ボランティアへの参加を通じて生徒の経験値を高めて、ポートフォリオ等の活動の記録やその保管方法を工夫する。 (4) 総合型・学校推薦型・一般選抜への対応として、6月以降、小論文・面接指導を職員全体で行う。 (5) 1・2年生の学力検討会、3年生の進路検討会の時間を確保し、学力向上に向けたタイムリーな方策を打ち出す。 (6) 生徒だけでなく家庭に対しても、適切な進路情報を継続的に提供する。	○1・2年生については対外模試結果を基礎資料として現状分析を行い、事後の取り組みについて職員間での共通理解を深めた。3年生については、11月と1月の進路検討会を通して出願先の検討を行い、三者面談を経ての出願支援に生かすことができた。半数近い生徒が9月以降出願の総合型選抜や11月以降の学校推薦型選抜に出願する現状があるため、次年度は4月の早い段階で3年生の志望状況と成績を担当団や教科担任間で共有する場を設けて支援を進めていきたい。 ○分野別教養講座を、昨年の11講座に、進路希望の多かった理学療法分野を加え12講座で実施した。次年度も生徒の進路希望状況に応じた講座で実施したい。なお、今年度まで土曜講座の一環で実施してきたが、来年度からは平日に開催することで招聘する学校の幅を広げたいと考えている。 ○今年度も80名の生徒が総合型・学校推薦型選抜に出願し、現時点で国公立大学では23名中9名、私大・短大・専門学校などでは57名中55名が合格した。総合型選抜や学校推薦型選抜の定員が増えていく傾向にある中で、そのための支援を充実させることも重要だが、しっかりと学力を備えることの大切さも伝えていきたい。	3.2		・進路の選択肢を充実させるために生徒の志望状況を分析して、分野別教養講座に組み入れられた対応は素晴らしい取り組みである。 ・新しい学力観で求められる学力向上の手立てとして職員の研修会を企画・実施されたことは、目標達成のための職員間のチームワーク、フットワーク、ネットワークを重視した取り組みであった。 ・進路支援については、志望状況や成績を教科担任間での共有や生徒の希望を考慮し選択肢を広げるなど、様々な方策・手立てをされています。 ・学習塾の講師を招き先生方へ研修会を開催され、スキルアップが図られていると思います。 ・短期的な進学指導に偏っている点が気になります。進学後やその先を見据えた進路選択を生徒さんたちはできているのでしょうか？ また総探を推進する立場としては、模試や課外などによる多忙化で自分なりの興味関心を深めたり、プロジェクトを実行する余裕がないことも課題に思っています。学力か探究かではなく相互が相乗的に関わるカリキュラム作りができていけばと思います。
	②進路支援体制の構築とキャリア教育の推進および計画的実施	(1) コースや類型に対応した、3年間を見通した進路支援体制を構築する。 (2) キャリア教育について、キャリア教育推進委員会を中心とした各校務分掌や教科との連携を密にし、加えて地域人材や専門家の活用を模索しながらより体系的・組織的に計画、実践する。 また、「日南高校未来戦略課」の更なる発展と充実に努める。 (3) 新しい学力観で求められる学力の向上の手立て、特に「大学入学共通テスト」で実力を発揮できる生徒の育成方法について研修の機会を設ける。 (4) 新教育課程に応じた指導の在り方について、教員間の共通理解を深める。	○7月に2・3年生向けの校内進路相談会を実施した。四年制大学22校、短大・専門学校40校、公的機関3組織に本校生が参加し、本校体育館にブースを設けて対面式の実施とした。様々な学校を知る機会となったが、移動制限も緩和されていることや、来校した学校の中から進学先を選ぶのではなく、自ら調べて訪問先を決めることを促すため、次年度は企画しないこととした。代わりにオープンキャンパスの案内や合同説明、体験学習などの案内をGoogle Classroomを活用しながら充実させたい。 ○「総合的な探究の時間」の充実を図るため、企画委員会を通して体系的な取り組みを模索している。普通コースではこれまで通り日南市役所と連携しながら探究を進めるが、探究科学コースではより自分の興味関心や進路希望との整合性の取れた活動「Nichinan Project」としてスタートした。探究活動を通して身につけた知識やスキルを進路実現につなげられるようサポートしていきたい。 ○職員のスキルアップの機会として進路研修会を2回実施した。1つは小論文の添削指導研修会、2つめは最新の進路情報や観点別評価について、それぞれ第一学習社、河合塾から講師を招いて実施した。次年度もニーズに合わせた職員研修を企画していきたい。	3.3	3.2	・大学入試のシステムについて早い段階での指導をされていると思うが、大学進学希望であっても受験のしくみをしらない生徒が一部見られる。二者面談などで具体的な志望校に向けての目標を共有し意識づけをしていただきたい。 ・「日南高校未来戦略課」の研究発表内容をホームページ内で動画配信してはどうか。地域の方、受験を考えている中学生・保護者へのアピールになるのではないかと。 ・本来の進学校としての役割を果たしており、生徒の実現に向けての学校として素晴らしい。医療面へのスムーズな対応に関しても、幅広く進学の道が広がられて医療人としてはありがたいと思います。
	③学力向上を目的とした個別指導の実施	(1) 朝課外と夕課外の実施方法を検証し、より効果的なものとする。 (2) 早朝・放課後の時間やFTを活用し、各学年において個に応じた指導を実践する。 (3) 土曜講座や長期休業中の課外の在り方を検証し、さらなる工夫・改善を行い、進路実現に向けての学力の定着を目指す。 (4) 課題テストの事前・事後指導の在り方や、評価の仕方について検証し、有効な活用法を策定する。	○全学年に対して朝課外を、加えて3年生には夕課外も企画し、基礎の定着や応用力の養成のために活用した。夕課外では一部講座制も導入した。 ○土曜講座は月に1回程度の頻度で計画し、過去問演習や模試対策に加え、分野別講座や進路相談会、進路講演会に活用してきた。講座が模試や各種大会等と重複することで運営しづらい側面もあり、実施の在り方などについて検討中である。課外についても同様で、生徒の進路実現をサポートすることを念頭に、生徒と職員双方に無理のない取り組みを検討していく必要がある。	2.8		

重点目標	評価項目	取組(P)	自己評価(A)		学校関係者評価
			方策・手立て(D)、結果の考察・分析及び改善策等(C)		
4 信頼される学校作り	①地域との良好な関係の形成	(1) 高校説明会・オープンスクール・教育課程説明会を実施することで、地域に開かれた学校を実現し、志望者の増加を図る。 (2) 学校案内パンフレット・学校紹介ポスター・ホームページ等を活用して学校の魅力を広く発信し、地域の理解と協力を得られる学校を目指す。 (3) 各種行事・式典・入試業務等を適切・確実に実施することで、地域に根ざし、地域の信頼を得られる学校作りに貢献する。	○オープンスクールは生徒主体の行事となるように企画・運営し、中学生と本校生が交流する機会(校内散策・座談会等)を多く設けた。また、本校卒業生の保護者を交えた保護者説明会を実施し、保護者の立場で本校の魅力・特徴について説明してもらった。 ○学校案内パンフレット、学校便り「エクセルショー」(日南・串間市内小中学校に配布)、高校説明会用のパワーポイントについては、授業・部活動・探究活動・各種行事で活動している生徒の映像・写真や生徒のコメントを多用し、中学生・保護者・地域に本校の教育活動がより魅力的に伝わるようなものを作成した。今後もホームページのリニューアルなどを通して中学生や地域への情報発信に努めていきたい。 ○入学式、教育課程説明会、高校入試等の地域との関わりが強い学校行事については、限られた職員数の中、運営方法等に工夫を加えることで適切な実施に努めた。	3.6	・地域を繋ぐホームページの重要性を痛感した一年として捉え、さらなる地域との信頼関係の構築を期待します。 ・SPS認証を受けられた取り組みを高く評価したい。 ・コロナの流行で人々のコミュニケーションが寸断される中、本年度、年間をとおして本校の様々な活動や魅力を日南市の広報誌「好きです にちなん」で、また、PTA広報誌「若潮」の作新などの活動は発信力の強化に繋がったと思います。 ・一部の中学生保護者で、日南高校の特に探究科学コースは勉強が大変なのではと思われるようですが、今年度からオープンスクールで、中学生と本校生徒の交流(校内散策・座談会等)や本校卒業者の保護者を交えた中学生保護者説明会が行われていることで、課題が解消されると思われます。魅力ある日南高校で、充実した高校生活が送れることの情報発信を今後もお願いします。
	②学校安全体制の確立	(1) 生徒・職員の命を守るために、危機管理マニュアル・学校安全計画の策定、学校安全研修・避難訓練の実施、事故・災害時対策(組織整備・備蓄品等)に取り組み、安心・安全な学校を目指す。 (2) 昨年度の学校安全教育推進校として学んだことを生かし、地域及び関係機関と連携して効果的な避難訓練や研修を実施し、地震・火災等の緊急時に迅速・適切に行動できる集団の形成を図る。 (3) SPS(セーフティプロモーションスクール)の認証に向けて、教職員・生徒・保護者・地域とのネットワークを組み、組織的かつ継続可能な学校安全の取り組みが協働して実践できるよう環境整備に取り組む。	○本年度も危機管理マニュアルや学校安全計画の策定、避難訓練の実施や事故・災害時対策(組織整備・備蓄品等)に取り組んだ。また、危機管理マニュアルについては、7月に県から加筆・修正の依頼があったため、該当の箇所を加筆・修正したものを改めて職員に配布し、職員会議にて説明、共通理解を図った。 ○昨年度に引き続き、学校安全教育推進校として研究指定を受けている。今年度はSPS(セーフティプロモーションスクール)の認証に向けて取り組んだ。昨年度と同様、避難訓練、心肺蘇生法講習会、校内危険箇所点検調査等を実施した。また、今年度も新しく2年生の中で防災に関わる進路希望をもつ生徒5名を学校安全生徒推進員として選出し、防災リーダーの育成に努めた。特に避難訓練については、1回目は通常通りの形で実施したが、2回目は移動教室での訓練と、予告無しの訓練を合わせて行うという新しい試みで実施した。この2回目の避難訓練では、災害が実際に起きた時を想定して実施してみようということで、学校安全推進員を集め、どのようなことが起こりうるかを協議し、その場面設定を実際に行った(避難経路について、がれきが落ちてきたという設定で通行止めにする。行方不明の生徒の設定)。予告無しの訓練でこれらを行ったのだが、通行止めになっていた場合の生徒の動きや不明生徒が出た場合の職員の動きなど、今までにはみえなかった新たな課題を見いだすことができ、有意義な訓練となった。これらの取り組みなどを通し、目標であったSPS認証を受けることができた。この認証を糧に、さらに学校安全教育を推進していきたい。	3.5	・コロナ感染対策で、PTA行事が思うように開催できないと思いますが、保護者はPTA行事に参加することで、学校(先生方)や保護者から子供に対する様々な情報を得ることができると思います。特に長子の保護者は子供の進学(受験)については不安があると保護者時代に感じていましたので、可能な限り開催をお願いします。 ・必要な手立ては講じられているものと思います。オープンスクールを生徒さん主体とし、中学生との交流機会を増やされていることなど素晴らしいと思います。今後も生徒さん中心の活動が増えることを楽しみにしています。 ・運動部、文化部の部活動やその生徒の活動が新聞等で紹介される場面が増えうれしい限りである。
	③組織的なPTA活動の展開と校内活動の記録・整理	(1) 各種PTA活動の充実を図り、内容の工夫により各行事への参加者の増加を目指す。 (2) 本校の各種学校行事やPTA活動を円滑に推進し、その活動を保護者をはじめ、中学校を含む地域へ発信していく。その手段の一つとして、刊行物「若潮」(PTA新聞)の内容・レイアウト等の工夫・改善を図る。本校教育活動の記録として、紀要「天杉」を年度末に発行する。 (4) 黒潮同窓会と連携して、同窓会活動の改善を図り、学校・生徒の側面的支援をする。	○コロナウイルス感染症の影響はあったものの「無限会PTA協力」および「合勝うどん」の大きな事業は予定通り実施することができた。「PTA総会」は体育館に参集せず各クラスでのリモート開催を試み、関係の皆様協力により支障なく開催することができた。「学習・広報・母親・生活」の各委員会も十全ではなかったが、感染の状況を見ながら活動していただいた。次年度こそは学校と保護者が協力して生徒の健全育成に繋げる活動を展開したい。 ○本校PTA広報紙「若潮」は、これまでの堅実な紙面づくりから、「チャレンジ」を合い言葉に大幅に紙面構成を見直した。今後も生徒、保護者から楽しみにしてもらえるような内容を模索していきたい。紀要「天杉」も年度末に発行すべく、現在内容を集約中である。 ○同窓会については「100周年記念式典」終了後、新型コロナウイルス感染症の影響により理事会・総会等開催できていないが、学校と事務局の連絡を密にして、アフターコロナの活動再開に期したい。	3.2	・「合勝うどん」が盛大に開催され生徒の満足度は高かった。 ・コロナ感染拡大時期に学校からの情報が少なく困惑されているご家族(特に医療従事者)があった。コロナに関しては特殊な事例ではあったが危機管理の点から情報共有についてPTAを巻き込んだ新しいSPSの形があってもよいのではないかと。 ・生徒数の減少の中、進学校としての実績もあり、また、いろいろな分野へのアプローチ等が良い意味で影響されると信じています。